

日置市温泉給湯事業経営戦略

団体名 鹿児島県日置市
事業名 温泉給湯事業
策定日 令和4年3月

1 計画策定の目的

本市の温泉給湯事業は、旧吹上町において、観光都市を目指すという町の重点施策の一つとして、吹上温泉の開発事業が進められ、湯源開発を行うとともに集中管理方式を採用して、昭和43年に温泉給湯条例を制定し、4町による市町村合併(平成17年5月1日)後も引き続き公営事業として継続してきました。

温泉給湯事業経営戦略は、給湯施設の老朽化に伴う更新など経営環境が厳しさを増すなか、事業の健全化を維持していくことを目的として策定します。

2 計画期間

計画期間は、令和4年度から令和13年度までの10年間とします。

ただし、随時進捗管理を行い、実績との乖離が著しい場合やその他の必要が生じた場合には、経営の在り方や事業手法等を含めて、計画の見直しをすることとします。

3 事業概要

1) 事業形態

法適(全部摘要・一部摘要) 非 適 の 区 分	非適	事業開始年度	昭和43年4月1日
事業の種類	温泉給湯事業	施設名	温泉給湯施設
職員数	1人(兼務)		
事業の内容	昭和43年度から温泉の集中管理給湯事業を行い、現在3か所の泉源からお湯を汲み上げ、9か所の旅館等に配湯している。 泉源 B泉源 湧出量ℓ/分 900 温度62.0℃ 昭和42年掘削 C泉源 湧出量ℓ/分120.00 温度65.0℃ 昭和42年掘削 D泉源(東泉源) 湧出量ℓ/分 400 温度40.0℃ 昭和53年掘削 ※別紙配管図参照		
民間活用の状況	ア 民間委託	なし	
	イ 指定管理者制度	なし	
	ウ PPP・PFI	なし	

4 将来の事業環境

1) 料金収入の見通し

経費の上昇等を考慮した見直しを検討する。

2) 施設の見通し

スケールが石灰化して管が詰まるため、2年～2年半ごとに混合槽からの送湯管の取替修繕が必要であり、現状の修繕料を維持していかなければならない。また、国民宿舎吹上砂丘荘への配湯管については布設替えを行っていないが、現状は漏湯があった場合の取替修繕のみを行っている。高等技術専門校内に埋設されている配湯管を移設する必要もあるが、当面は、既存の施設の現状維持に努める。

施設維持修繕料見込み額

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
混合槽から貯湯槽への送湯管取替修繕	605,000	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000	600,000
その他の送湯管(配湯管)取替修繕	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
ポンプ取替修繕	276,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000
漏湯等其他修繕	300,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000
合計	1,281,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000

3) 組織の見通し

現状を維持する。

5 経営の基本方針

温泉給湯事業が公共の福祉の増進と観光振興に重要な役割を担っていることに鑑み、給湯施設の適切な維持管理や安定供給できる施設の整備更新が重要であり、引き続き経営の効率化等に努めながら、健全な経営を維持していく。

職員給与費	会計年度任用職員制度に基づいた経費と休祭日及び時間外の故障対応のための職員の時間外勤務手当である。
-------	---

4) 公営企業として実施する必要性など

事業の意義、提供するサービス自体の必要性	公営企業である国民宿舎への配湯と民間温泉等8カ所への配湯であり、3か所の泉源を合わせて配湯しないと湯量が足りない状況であるため、一括管理する事業は必要である。
公営企業として実施する必要性	公共の福祉の増進と観光振興に重要な役割を担っていることから、現時点では公営で実施する必要がある。

5) 経営戦略の事後検証、改定等に関する事項

経営戦略の事後検証、改定等に関する事項	持続可能性の判断を協議することが、今後の課題であり、状況に応じて戦略の改定も行う。
---------------------	---

吹上温泉給湯配管図

平成29年3月31日現在

